| 学校番号 | ３１０ |
|---|---|

# 令和８年度　家庭科

| 教科 | 家庭 | 科目 | 保育基礎 | 単位数 | ２単位 | 年次 | ３年次 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 使用教科書 | 保育基礎　ようこそ、ともに育ち合う保育の世界へ　　教育図書 | | | | | | |
| 副教材等 | なし | | | | | | |

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

子どもがどう発達するか、子どもにはどんな保育が必要かなどについて、とくに、職業として子どもにかかわる保育者の視点から学んでいきましょう。子どもの発達や生活の特徴、保育、福祉や文化などについての知識を体系的・系統的に身につけるとともに技術も身につけましょう。主体的にかつ協働的に取り組む態度を身につけましょう。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
保育の意義や方法，子どもの発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】
子どもを取り巻く課題を発見し，保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】
子どもの健やかな発達を目指して学び，保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

| 観点 | a:知識・技術 | b:思考・判断・表現 | c:主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| 観点の趣旨 | ・子どもの発達や生活の特徴、保育、福祉や文化などについての知識を体系的・系統的に身につけている。<br>・子どもの発達の特性や発達過程に対応した技術を身につけている。 | ・子どもを取り巻く課題を見つけ、保育を担う職業人の視点から合理的かつ創造的に解決するために、思考を深め、適切な判断や工夫、表現をする力を身につけている。 | ・子どもの発達や保育にかかわる職業について関心をもち、地域の保育や子育て支援を通じて子どもの健やかな発達に寄与しようとする意欲的な態度を身につけている。 |

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

| 学期 | 単元名 | 学習内容 | 単元(題材)の評価規準 | 評価方法 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 知(a) | 思(b) | 主(c) |
| 1学期 | 1章子どもの保育 | ① 保育の意義<br>② 保育の環境<br>③ 保育の方法 | a: ・子どもの人格形成における保育の重要性を理解している。<br>・家庭での養育と集団保育の役割を理解している。<br>・家庭での子育ての現状と課題、国の子育て支援の内容などについて理解している。<br>・月齢・年齢に応じた保育者の適切なかかわり方を理解している。<br>b: ・子どもの保育の特徴や、保育者に求められる姿勢などについて要点をまとめることができる。<br>・月齢・年齢に応じた適切なかかわり方として、具体的な声かけなどの内容を考えられる。<br>c:・保育の意義について，自分自身が親や保育者になることを考えるなど，自分の人生観と結びつけて考えようという姿勢が見られる。 | 定期考査 | ワークシート | ワークシート |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 2章子どもの発達 | ①子どもの発達の特性<br>②乳幼児の発育と発達 | a: ・子どもの発達の共通性・個別性について理解している。<br>・子どもの発達は、身体の発育と心や身体の機能の発達が相互に関連してなされていくことを理解している。<br>・子どもの心身の発達のために、保育の環境が重要であることを理解している。<br>・乳幼児の発育や生理的特徴が大人とは大きく異なることを理解している。<br>・発達の各側面における過程を理解している。<br>・発達の過程で子どもができるようになることを,月齢や年齢に応じて挙げることができる。<br>・情緒や社会性といった心の発達に関して、親や保育者との愛着形成が重要であることを理解している。<br>b: ・母子健康手帳などの資料を見ながら、発達の各側面が相互に関連し合っていることを読み取り、具体的に考察することができる。<br>・地域の保育施設の子どもとのふれ合いや、保護者へのインタビューなどを通して、子どもの発達や保育者のかかわりの特徴を具体的にまとめたり、発表したりすることができる。 | 定期考査 | ワークシート | ワークシート |
| | 巻末 | 保育実習に行ってみよう | b:・保育実習において、子どもの発達や生活の特徴を調査・観察し、まとめたり発表したりすることができる。<br>C:・保育実習において、子どもの発達段階や生活の特徴を意識しながら、積極的に子どもとかかわろうとしている。 | | レポート発表 | グループ活動 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2学期 | 3章子どもの生活 | ①子どもの健康と生活<br>②子どもの食事<br>調理実習<br>③子どもの衣服と寝具<br>④子どもの健康と安全 | a: ・子どもの養護の必要性について理解し、その発達段階に応じた適切な養護や生活援助のための技術を身につけている。<br>・子どもの日常生活における世話の仕方とその役割について理解している。<br>・乳幼児期の食生活の特徴や、発達に必要なエネルギー・栄養素などについて理解している。<br>・子どもの食生活の特徴に合った料理の作り方を理解し、基礎的な技術を身につけている。<br>・乳幼児の発達や生活の特徴から、適切な衣服・寝具の状態について理解する<br>b: ・現代の子どもの食生活の変化について、健康や生活習慣に関する課題を見つけ、自分の考えをまとめたり、発表したりすることができる。<br>・子どもが快適で安全な衣生活を送るために、衣服選びや着せ方をどう工夫するべきかなど、自分の考えをまとめたり、発表したりすることができる。<br>c: ・調理に関心をもち、調理実習に積極的に参加している。<br>・子どもの着替えやおむつ替えなどをする際にどのようにかかわるかなど、自分が保育者や親になったときを想像し、自分ごととして捉えようとしている。 | 定期考査 | ワークシート<br>レポート | ワークシート<br>グループ活動 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 5章子どもの文化 | ①子どもの文化の意義<br>②子どもの文化を支える場<br>③子どもの表現活動 | a: ・子どもの文化やそれを支える場の役割や意義を理解している。<br>″・子どもの健やかな発達が遊びによってもたらされることを理解している。<br>・おもちゃ作りなどの活動を通して、子どもの遊びの特徴や、保育者としての適切なかかわり方を捉えている。″<br>・子どもの発達における表現活動の意義を理解している。<br>b: ・おもちゃづくりなどの活動を通して、子どもが楽しく安全に遊ぶことができるように工夫することができる。<br>・表現活動において、子どもの意欲を引き出すために保育者はどのようにかかわるとよいか、自分の考えをまとめたり発表したりすることができる。<br>c: ・保育施設で行われている表現活動に関心をもち、積極的に体験しようとしている。 | 定期考査 | ワークシート<br>発表<br>レポート | グループ活動 |
| 3学期 | 4章子どもの福祉 | ①保育に見る児童観<br>②児童福祉の理念と法規･制度 | a: ・世界・日本の児童観や子どもの福祉の変遷の歴史が、現代のさまざまな法律や制度に生かされていることを理解している。<br>・児童福祉の理念と特徴、法律や制度、福祉にかかわる施設の役割について理解している。<br>b: ・児童虐待や貧困など、具体的な問題を通じて子どもの福祉の必要性を考察し、自分の考えをまとめたり発表したりすることができる。 | 定期考査 | ワークシート<br>発表 | ワークシート |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | まとめ | 保育の学習をふり返ろう | b:・これまで学習してきた内容を振り返り、保育にかかわる内容をまとめることができる。<br>・子どもや保育について、学習前後の自身の考えの変化などをまとめることができる。<br>c:・これまで学習してきた内容を踏まえ、将来自分がどのような形で子どもにかかわっていくかをイメージしようとしている。 | | レポート | ワークシート |

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度